



炬火を掲げていざ謳う

No.12



我々の泉鳥取

2022年8月19日(月)

編集・発行 泉鳥取高校 教頭(妻木)

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>



府立高校最多？

中高派遣教職員延べ9名

昭和60年代、高等学校に入学する予定者が急増する時代となりましたが、それは一時のことで、すぐに15歳人口は減少することが予測されていました。

そこで府教育委員会は、新規教職員の採用を抑え、経験年数の少ない中学校教員を一定期間(5年間)高等学校に派遣する、中高派遣の制度を1986年度に立ち上げました。泉鳥取高校には、1986(昭和61)年度以降、延べ9人の中学校教員が派遣されてきたのです。

当時をよく知る阪南市立鳥取東中学校校長、田窪宏年先生は、泉鳥取高校に派遣された最初の中学校教員です。先生は当時の感想を次のように語っています(12期生1年より担任、卒業時3年9組担任)。

「中学校と高校はずいぶん違うなあ、と感じました。中学校では、生徒の中に入り込んでいくのに対して、高校は大人として扱う場面が多いんだと最初は感じました。」

田窪先生が最初に担任を持った学年に新任教員として赴任した私(妻木)は、初めて担任を持ったのがたまたま田窪先生のクラスと隣同士でした。田窪先生が、初担任を持つ私に対して、『教員で一番面白い仕事は、担任やで、うだうだ話しながら、生徒の情報を集めて、その子の指導に役立てたとき、ほんま楽しいで。』と言われたことを、今でも覚えています。

田窪先生は放課後長い時間をかけて教室の掃除をされており、その時間帯に、生徒とコミュニケーションを図り、生徒の人となりや抱えようとしていました。当時の居残り生徒たちは、いまだに田窪先生と年賀状のやり取りをしているそうです。

田窪先生のと、中高派遣の中学校教員が8名、本校に来られ、



1990(平成2)年当時
12期生卒業アルバムより

生徒に対してぶつかっていく中学校の先生方の指導を見せていただき、大いに力となりました。

田窪校長先生は「鳥取東から泉鳥取へ、毎年20名ちかくの生徒がお世話になっていましたので、中学校としては閉校はきついです。また、自分の思い出も含めてつらいですね。」と話しておられました。



三年九組田窪学級 副担任は村田悟先生
(卒業アルバムより)